



世界と地球を見つめ、

考え、行動すること

統括本部長 末岡 祥弘

マレーシアのジャングルを切り開いた開拓村での研修でホームステイをしたことがあります。笑顔の絶えない親子3人の若夫婦の家で、石油ランプを頼りに魚の干物と飯少し、フライドバナナの夕食ができました。同宿は九州の農家の方で英語は全く分からない人です。翌朝、彼は畑を見た瞬間「この土での生活は厳しいよ。よく米を出してくれたな」と呟きました。言葉は分からなくても夫婦の生活と環境の厳しさを瞬時に想像する力を彼は持っていました。私は作物や土の知識も無く、

やさしい笑顔の夫婦の本当のつらさを想像する力はありませんでした。大学生の頃、有名な報道写真家が六甲山YMCAでの講演会で「これからの国際理解で大事なことは？」の問いに対して「土のちがいが分かるようになる事」と答えた意味がこのとき初めて分かった気がしました。

国内外で起こっていることが世界の人々の生活や地球とどうつながっているのかを想像し、自分の隣に住む人の苦しみや悩み、そして喜びを知ろうとする意思と共感があるかが問われます。相手のことを注意深く見つめ、想像するためには考えること、学ぶことが必要です。そして考えた後どんな行動を取るのかは私たち一人ひとりにまかされています。

YMCAの願い

YMCAでは活動とおして次のことを学びます。

- 1. 自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること
2. 家族、地域のひとりとして責任があること
3. 世界と地球を見つめ、考え、行動すること
4. ボランティア精神とリーダーシップを身につけること
5. すこやかな心とからだを育むこと

これらを実現するために「思いやり」「誠実さ」「責任感」「尊敬心」をすべての場面で大切にします。

私たちが住む地域社会においても多国籍の人々とのつながりが増え「みんな違ってみんな良い」多文化共生社会を私たちの生活の中で形作り、行動していく時が目の前に来ています。

YMCAでは前述の国際理解・交流プログラムをはじめ、語学教育、国際協力募金、指導者派遣、日本語学校、専門教育への海外からの受け入れ、環境教育など様々なプログラムが行われています。それらを通して世界と地球を見つめ、考え、行動することを学びますが、決して特別なことを意味しません。見つめることは想像すること。想像することは相手思いやることにつながります。



CAMPING AWARD 2006 受賞

六甲山YMCA

10月7日(金)に開催された「2006全国キャンプ大会 in 石川(われら地球人ハテナー老いも若きもCamping!)」において、六甲山YMCAが日本キャンプ協会「CAMPING AWARD 2006」を受賞しました。大阪YMCAは1920年に、兵庫県六甲山麓の南郷山で長期ボーイズキャンプを実施して以来、組織キャンプの先駆的な取り組みを行ってきました。そして、戦後間もない1951年に組織キャンプの実践の場として、大阪YMCA六甲山キャンプ場(現六甲山YMCA)を開設しました。以降、青少年を対象に各種キャンプを実施し、青少年の健全育成に効果をもたらすとともに、組織キャンプの発展・普及に大きな役割を果たし、



中高生のための

「いのちと安全ワークショップ」

土佐堀YMCA地域活動委員会

土佐堀YMCA地域活動委員会では中高生を対象にいのちを守るための大切さを学ぶ「いのちと安全ワークショップ」(4回シリーズ)を企画し、その第一回と第二回のワークショップが10月14日(土)大阪YMCA会館にて開催され、総勢74名の参加がありました。



第一回は「いのちを食べる」をテーマに野口清美さん(なちゆらるクッキング Mogu Mogu 主宰)をお迎えし、玄米や地野菜を使った体に優しい調理法と食べ方を体験しました。野口さんはできるだけ新鮮な野菜の皮や芯をとらずにおいしく調理して食べることを

が、健康なからだ作りに良いことをお話しされ、参加者は野菜そのものの味を大切にしたいと、ごぼうの甘さに驚いていました。第二回は「いのち・誕生。米山清美さん(にしのみや遊び場つくろう会代表)にファシリテーターをお願いし、プレパークのリーダーや幼児たちと一緒に遊んだり(写真)、保育園を見学し

東YMCA祭り

10月22日(日)、東YMCA近隣の五百石公園にて毎年恒例の東YMCA祭りを開催しました。天候にも恵まれて、サンホーム入居者18名の参加を含め、約260名の方が集いました。

地域の方々と同じ空間を楽しむ場である東YMCA祭りは、テーマを「異世代交流」とし、様々な催し物を通してテーマを体験してもらいました。特に今年度は運動会を実施し、爽やかに身体を動かす事ができました。子どもたちのかけっこ競技での真剣な眼差しや惜しみのない拍手、参加者の笑顔、高齢者とのふれあいがあったと見られました。競技に参加できなかった高齢者も子どもたちの競技を応援している表情は朗らかで、異世代交流の本来あるべき空間の共有が感じられました。

身体を動かした後はYMCAボランティアやワイズメンズクラブ、そしてサッカークラスの保護者も参加しました。子どもたちも自分たちでできる取り組みについて考える機会になることを願っています。(岡野泰和・土佐堀YMCA地域活動委員)



シヨップ、来年1月27日には公開シンポジウムも開催される予定で、中高生たちが自分たちでできる取り組みについて考える機会になることを願っています。(岡野泰和・土佐堀YMCA地域活動委員) \*このワークショップは文部科学省家庭教育支援総合推進事業の委託を受けています。